

檀信協だより

発行 静岡県中部檀信徒協議会

Vol.21

平成23年9月1日発行

編集 静岡県中部宗務所教化センター
http://www.myouhou.com/

合掌 私は、この度、平成二十三年から同二十六年までの四年間の任期で、日蓮宗静岡県中部宗務所長に就任いたしました。貫名英舜と申します。どうぞ、よろしくお願いを申し上げます。みなさま方には、引き続き、日蓮宗の檀信徒として宗門の護持発展のために応分のお力添えを賜りますことを改めてお願いを申し上げます。次第です。

さて、言うまでもなく、現在の日本は三月十一日に起こりました東日本大震災と福島第二原発の事故により、未曾有の国難ともいえるべき厳しい事



態の中にあります。この震災と大津波によって二万人余りの尊い人命が失われ、また多くの人々が生活の基盤を奪われました。加えて、原子力発電所の事故により避難生活を余儀なくされている方々も多数おられ、また、同事故による放射能汚染により農業、水産業にも深刻な被害が及んでいます。

今、我々がするべきことは、これらの被災者を支え、さらに復興を支援することです。その上で、災害に強い生活基盤の整備と従来の資源・エネルギーに関する考え方を根本的に見直すことです。

日蓮大聖人は、『立正安国論』において社会の危機を乗り越えるためには、そこに住む人々の意識改革が必要であると説かれました。仏教は「因果」を説きます。社会が

日蓮宗静岡県中部宗務所長
貫名 英舜

宗務所長就任のごあいさつ

静岡県中部宗務所長 常泉寺 貫名 英舜

危機状態を迎えるのにはそれなりの原因があるということ。そして、その根本的な原因に立ち戻って、変革すべきところは勇断をもって糺すべきであると思います。

日蓮宗は、現在、「立正安国・お題目結縁運動」の第二期の運動を展開しています。「敬いの心で安穩な社会づくり、人づくり」の推進が主たるテーマです。この危機の時代において、どうすれば人々が安心して暮らせる社会を構築することができのかを僧俗一体となって考え、実行に移して参りたいと思います。皆様にはこれまで以上のご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

平成三十三年(二〇二一年)は宗祖日蓮大聖人御降誕(お生まれになられて)八百年の聖なる年にあたります。日蓮宗ではこの年をめざして、現在宗門あげて『立正安国・お題目結縁運動』を推進しています。

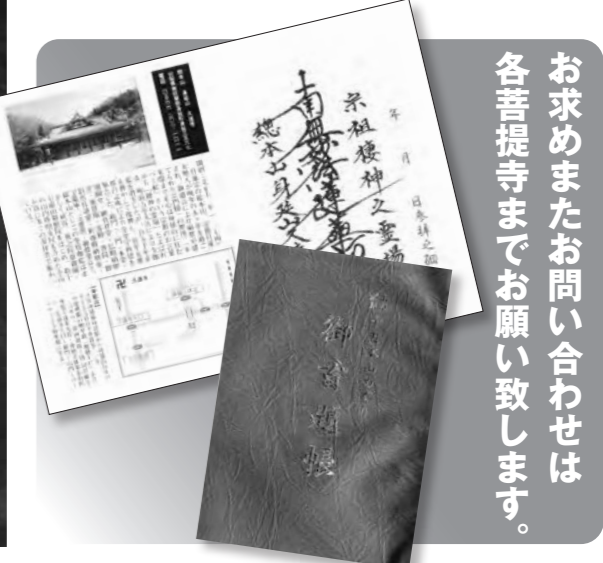
日蓮大聖人は、人々の幸福と世界の平和実現のために、自らお題目を唱え、そしてお題目を他に勧めることこそが肝要なりと叫ばれました。

このお題目にさらなる縁を結んでいただく為に完成したものが、この『山静教区十五本山めぐり 御首題帳』です。

この御首題帳をお持ちになり、山梨・静岡の各本山を訪れて下さい。由緒正しい各本山の長い歴史を実体験されることで、さらにお題目の尊さを実感していただければ幸いです。

日蓮宗 立正安国・お題目結縁運動 “いのちに合掌”
『山静教区十五本山めぐり 御首題帳』

- 内容
- ・各本山歴
 - ・住所と電話番号
 - ・略地図と案内
 - ・御首題等
- ※参詣の折、この御首題帳に年月日・御朱印頂きます



お求めまたお問い合わせは各菩提寺までお願い致します。

宗門運動
「立正安国・お題目結縁運動」平成34年3月31日まで

管区テーマ
『ひろめよう合掌の心』

いのちに合掌

日蓮宗静岡県中部宗務所
〒416-0901 静岡県富士市岩本2184-2 TEL0545-64-6668
開所日:月・木・金 10:00~16:00

静岡県中部

檀信徒協議会総会

於 静岡市清水区 清水テルサ



六月二十三日(木)清水区テルサにおいて、管内寺院護寺会長、宗務所関係者延べ一二六名出席のもと、平成二十三年度静岡県中部宗務所檀信徒協議会総会が開催された。

総会に先立ち、深澤前所長・貫名新所長より、平成十九年度より始まった宗門運動も第二期有成活動に入り、管内寺院護寺会長の皆様には更なる協力をお願いしたいとの挨拶があった。

その後、慣例により遠藤会長(実相寺護持会長)を議長として議事が進められ、平成二十二年行事事務報告・全国檀信徒協議会報告・平成二十二年度収支決算報告・監査報告が行われ承認された。さらに社会教化事業協会(四條衍明会長)より平成二十二年度一食一円アシスト募金収支決算報告と更なる協力依頼があった。また、今年度は役員改選

の年でもあり、新たに後藤幸雄氏(吉祥寺護持会長)が新会長として承認を受け、その他副会長、監査についても新たに承認を受けた。その後、後藤新会長を議長として、平成二十三年度行事計画・平成二十三年度収支予算の件について議事が進められた。



平成二十三年度 檀信徒協議会役員名簿

区	代表者氏名	菩提寺	役職
1	足立 吉松	妙蓮寺	副会長
2	前田 徳治	妙延寺	監査
3	遠藤 慎	実相寺	
4	佐野 文紀	妙善寺	副会長
5	渡井 康景	東陽坊	
6	佐野 庄平	常境寺	
7	後藤 幸雄	吉祥寺	会長
8	遠藤 裕孝	善立寺	監査
9	加藤 鐵雄	本妙寺	
10	掛川 洋一	宗長寺	副会長
11	望月新太郎	宗傳寺	

東部=1.2.3区 中部=4.5.6.7区 西部=8.9.10.11区

基調講演法話

静岡県中部宗務所副長「中條 曉秀 上人」(清水区本能寺)

「立正安国論」を読む
—平成の大地震に鑑みて—

「旅客来りて嘆いて曰く、近年より近日に至るまで、天変・地よう・飢饉・疫癘、遍く天下に満ち、地上にはびこる。牛馬巷に倒れ骸骨路に充てり。死を招くの輩既に大半を超え、之を悲しまざる族敢えて一人も無し」とは『立正安国論』の言葉である。

日蓮聖人が『立正安国論』を著し、鎌倉幕府の実力者北条家の得宗、北条時頼に奏進したのは文応元(一二六〇)年七月十六日、三十



九歳の時だった。三年前に正嘉の大地震が起き、それに続いた飢饉や疫病で死体が散乱する惨状を嘆いている。

国とは人々が生活する場である。その生活が脅かされる。生活環境が破壊される。日蓮聖人にとって、そこそ居ても立ってもいられぬ切実な問題であった。

この自然災害の原因について日蓮聖人が考え抜いた結論は、専修念仏などの邪法がはびこっているためで、正しい仏法である『法華経』を中心とすれば国家も国民も安泰になると訴えた。簡潔に言えば、「南無妙法蓮華経」と「御題目」を唱えれば、森羅万象の大真理を題目の力で悟りの世界に入ることができ、まさに「易行中の易行」だと。

さて、日蓮聖人が『立正安国論』で予言した「他国侵逼難」(他国の侵略)と「自界叛逆難」(同土討ち)の二難は、まず「他国侵逼難」は、蒙古襲来危機で現実味を帯び、

「自界叛逆難」は執権時宗の庶兄時輔の乱(二月騒動)によって、現実となった。この国難も念仏、禪、真言、律宗など邪法が垂れ流しになっているためだと日蓮聖人は捉えたが、幕府は邪法を禁止せよとの日蓮聖人の要求を無視した。かかる誠意なき幕府の態度にあきれた日蓮聖人は「三度国を諫さむるに用いずば、山林にまじわれ」の例に倣って身延山に入る事となる。

日蓮聖人の思想の特色は、来世に救いを求めるのではなく、この濁世を理想の仏国土の建設に邁進しようとする点にある。法華経の行者は「不惜身命」(命限りあり惜しむべからず)という気概で国土を改造する責務を負うというのである。ここに日蓮聖人の真骨頂がある。

『立正安国』という題名のこと—
「立正安国」の四文字は、内容と目的とを最も的確に



表現し、併せて端的に日蓮聖人の宗教観を明示した四字熟語である。

「立正」とは正法を立てること。いうまでもなく正法とは法華経のこと。「安国」とは日本乃至一閻浮提(全世界のこと)の万民を安穩にすること。つまり正法で

ある法華経をもって一閻浮提を仏国土とするの意である。

さて、明庵栄西(一一四一—一二一五)には「興禪護国論」がある。「興禪(禪を盛んにすること)」によって護国となるのであるから、「立正安国」とやや近い題となるが、「護国」と「安国」ではその意味するところは違う。確かに「鎮護国家」を始め「護国」は伝統的用語ではあるが、宗教用語としてはいうまでもなく、「安国」が相応しい。「護国」ならば政治・軍事でも可能であるが、なれど「安国」という精神的安穩は、ただ宗教によってのみ齎されよう。

お知らせ

一、身延山大学公開講座開催のお知らせ

日時 十一月二十八日(月) 十四時より
場所 清水テルサ

※詳細は後日改めてご案内致します
◆一食一円アシスト募金継続中です。
ご協力をお願いします。